



仕事

えん どう ゆき お
遠藤 幸雄さん (岡野)

78歳。昭和44年に有限会社遠藤商事を立ち上げる。造園を中心に、幅広い仕事を手がけている。

特集 人生100年時代、 あなたはどう生きますか？

なぜ働き続けるのか？

『アリとキリギリス』で言えば、俺はこと貯蓄に関して、キリギリスだったんだな。もちろん、仕事は一生懸命やったよ。でも、釣り、射撃、刀剣…と、趣味も多くて。だから働き続けなきゃいけないっていうのが正直なところだね。ただ、この歳でも働いている方が良いと思ってるよ。同じ体を動かすのでも、体操なんかより、楽しみながらできるし、稼げるし。朝起きたときは体が痛むことがあっても、夕方仕事が終わる頃にはピンピンしてるよ。



今までの仕事は？

元々、鉄道会社の観光事業部に勤めてたんだよ。それなりに楽しかったし、嫌だと思っただことは一度もないね。でも、ある時、植木で稼げるということが分かって、すぐ辞めてしまった。勤め人になくなることに不安はなかったよ。それで、植木の行商みたいなことから始めたんだ。

そのうち、造園、住宅関係の仕事にも事業が広がってね。現場、現場で勉強したよ。家に帰っても、毎晩かかさずに庭や住宅の本を読み漁った。誰でも知っているハウスメーカーから、伊豆の一分譲地の仕事を任されたこともあったね。庭も含めた外構仕事をね。完成して、社長から直々にお礼されたときは

誇らしかった。そんな縁から、その会社のテレビCMで使う庭も、造らせてもらってたんだよ。

この仕事の魅力は？
 庭を造ると、その後の手入れにも呼んでもらえる。そうすると、住んでいる人の顔が見られるでしょ。一度造ったらおしまいじゃなくて、関係が続いていくって良いよね。

今は造園の国家資格取得の指導員もしていて、合格者から感謝の言葉をもらった時は、やっぱり嬉しいよ。

これからの目標は？

去年から農業事業に参入して、機械を買ったんだよ。まだ、先輩に教えてもらいながらだけれど、田んぼを管理できる人も減っていくばかりだし、少しは地域に貢献したいね。

同じ岡野の人と小麦を作ろうって計画もあって、できた小麦粉は町内のパン屋さんで使ってもらおうと思ってるよ。同じ事業だけやってても、縮こまるばかりだし、新しいことに挑戦しないと。■

ある研究によれば、日本で2007年に生まれた子どもの半数が107歳より長く生きると予測されており、100年間生きることを前提とした人生設計や学びが必要とされています。今回は、「仕事」「趣味」「地域」の3つのキーワードに沿い、いつまでも元気な方々に、人生100年時代を生き抜くためのヒントを語ってもらいます。

問 企画政策課 ☎84-0312



①② あじさいとの関わりも深く、町のオリジナル品種「開成ブルー」の管理も担っている。

